

親子のアート広場

～ 陶芸まねきねこ編～

本企画のねらい

「子どもだけ」「親だけ」ではなく、
子どもも親も一緒に参加し、両方が楽しめる場をつくることで
「また公民館に来たい」と思うきっかけにする

本企画共催先

草ヶ江公民館（福岡市中央区六本松1丁目11-1）



草ヶ江校区にある公民館。地域の小学校の授業「くさがえ科」や、小中学生向けのイベント、高校生・大学生と実施するイベントなどで、地域の子どもたちとの交流が盛ん。高齢者、保護者、多文化共生のための企画も実施されている。

本企画の工夫点

1

親子別スペースで作業する 分業形式のワークショップ

子どもたち主体の、子ども向けのイベントでは、おとなが「同伴者」として来るに止まってしまう。そのため親子が干渉し合うことなく、主体的に楽しめるイベントを目指し、分業型のワークショップを設計した。

2

複数回の参加を前提とした パッケージ型イベント

参加者が、イベント一回のために公民館にくるのではなく、その後も公民館に訪れることが習慣になるのを目指した。そのため、複数回連続のイベントとして、参加者が何度も公民館を訪れるきっかけになるようにと設計した。

実施スケジュール

10月

陶芸まねきねこ&座布団づくりワークショップ

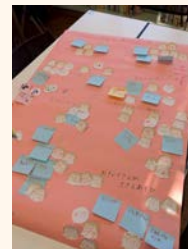
子ども達が陶芸のまねきねこを作り、親は子どもとは別で、まねきねこ用の座布団を制作。親子がそれぞれ分担して、一つの作品を完成させた。



11月

こども会議～展示会の企画～

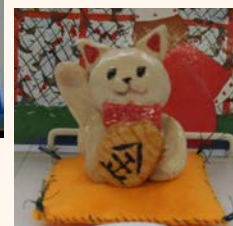
まねきねこの展示会を開催するために、まねきねこの配置や展示以外のプログラム、お客さんをお呼びする方法、当日の役割分担を子ども達で考えた。



12月

陶芸まねきねこ作品展示会

11月の会議で決めた内容で、実際に展示会を子どもたちが主催。保護者の方やその他の地域の方を招き、子ども達が司会・進行、お客さんのおもてなしを主体的に行った。



当日の様子・本企画の効果

親子全員の主体的な活動

親子間での「揉め事」や「口出し」などが全く生じなかった。子どもたちはのびのび創作し、親は普段はあまり時間がとれないような個人の作業に集中することができた。

参加者との関係構築

複数回連続のイベントにしたことで、子ども達や親御さんと話す回数も多く結果、子どもたちがまた別の企画にも参加しに来てくれたりなど長期的な交流につながるような関係構築ができた。

地域の人同士の自然な交流

親子合同の活動ではない分、隣に座る親同士で話したり、子どもが私たち大学生や公民館の方と話したりと、地域の人との交流が多く見られた。

イベント終了後も数週間、展示期間として公民館にまねきねこを飾っていた。

置いていた感想用紙には、地域の方が沢山の感想を残してくださった。

個人宛の感想は

本人に返却。

対面に限らず、

交流を形作る

ことができた。

